30 「奇跡の村」で考えたこと?!学ぶべきことは多々あるが、不安も見え隠れする?!

堂本　彰夫

(1) 長野県泰阜村への旅！おかしな顔ぶれ？ではあったが、実に楽しい旅であった?!

今月（10 月）の７～９日、二泊三日の旅をした！長野県泰阜(やすおか)村への視察？旅行である！これについては別途触れたが（『『岳陽』と共に」第 37 号)、ここでは、改めてその具体的な報告も兼ねて、私の思う（想う？）ところを述べてみたい！直接の訪問先は、同村にある「ＮＰＯ法人グリーンウッド自然体験教育センター」であったが、私としては、２度目の訪問であった（15 年くらい前だったと思うが、詳しくは覚えていない！Ｕ市のＫさんとの突撃？訪問であったが、もの凄く寒かったことが記憶に残っている！)。

しかるに、今回は、沖縄のＮＰＯ／一般社団法人関係（公民館／児童館／青少年教育施設の指定管理団体等）６人、個人（Ｎ市職員）１人と私の、合計８人（内３人は、ほぼ初対面？）の珍道中？であった！生憎の雨模様で、秋の南信州の山並み（伊那谷／中央アルプス／南アルプス）は、ほとんど見れなかったが、明るく元気に暮らす子ども達と、彼らと共に生きている、心あるスタッフの人達と出会って、私はともかく、同行の面々は、大いに感動と共感を覚えた時間であった（同じ苦労？をしている人達との出会いが、きっとそうさせた？）！受け入れてくれたセンターの皆さん、そして前・現村長さんに、この場を借りて、お礼申し上げたい！

とは言え、そんな中、私には、それよりも何よりも、その事業体（ＮＰＯ法人としてのセンター)、そして、そこで働くスタッフ（ほとんどが県外からの移住者！）の思いや活動、否、人生？が、今後どうなっていくのかということが、一番の関心事となっていったことは言うまでもない（これまで中核となっていたＴさんが、止むを得ない事情で、そこを離れたこともあって！）！まさに「奇跡の村」とも言える同村ではあるが（これについては、様々な情報提供がある！→辻英之編著『奇跡のむらの物語 ： 1000 人の子どもが限界集落を救う!』農山漁村文化協会, 2011. 11)、だから学ぶべきことは多々あるとしても、この先のことを考えると、少し不安になるということでもある?!ただ、旅自体は、おかしな顔ぶれ？ではあったが、実に楽しいものであった！

しかるに、この旅は、去った３月に、リモート交流ではあったが、そこの中核リーダーであるＴさんを紹介し、それが縁で実現したわけであるが、同行した面々（一人だけ、残念ながら参加出来なかったが！）にとっては、その「奇跡の村」を実現させてきた人達の姿（生き様？）は、絶対に参考になるし、是非、彼らの今後の活動、そして思いの結集につなげて欲しいということが、私の密かな願いでもあったということである（飲み会の時には、結構明言していたが？）！それがまた、私の同行を後押ししたのでもある！途中までは、自らの体力懸念もあり、「私は行かない！」と言い続けていたが、やっぱり行って良かったのである?!

いずれにしても、全国至るところにある、こうした事業体（ＮＰＯ法人／一般社団法人等）が、ひとづくりとまちづくりの一体化（循環）に大いに貢献しているであろうことは、容易に推察されるわけであるが、ここのセンターは、まさにその究極？（村の存続！ただし、人口自体は減っている！）を成し遂げてきたわけである！だから、その方法論や考え方（もちろん苦労話も？）を聞かせてもらうことは、大変貴重なものとなる！だが、一方で、その法人の行く末によっては、村全体が変質（崩壊？）していくことも十分予見される（同村においては、将来のリニア新幹線駅の誕生によって、隣の飯田市に包摂されていくかもしれない？)?!一つの生活、そして文化圏域である村(地域／コミュニティ)が、今後どうなっていくのか？全国等しい問題なのでもある?!

(2) 改めて、何を学ぶべきか？そこには、強烈なメッセージがある?!

ということで、折角でもあるので、ここで改めて、このセンターの取り組み（存在）から、何を学ぶべきかということを確認しておきたい。まずは、とにもかくにも、そこで働くスタッフの人達の覚悟（意志の強さ）が、第一に挙げられることは言うまでもないが、まさに、それぞれのスタッフの人生を賭けた仕事が、そこで為されているということである（様々な想い、事情が、そこにあるとは言え？）！それを象徴しているのが、最後にお会いした開拓者？（初代代表のＫさんという女性）の言である！39 年前のことであったようであるが、「嫁に来たつもりでやります」と言ったそうである（多少ニュアンスが違うかもしれないが？）！

要は、そこの住人とならなければ、何も出来ない、そして、受け入れてもらえない！何とも言えない覚悟であるが（移住をし、そこの住民となって活動する！)、実際凄いのは、それを、今日まで、現実に示されてきたことである（今回、一番強く心に刻まれたこと！）！つまり、どこかで、何かをするときは（たとえ自らの理想を実現するためであっても！)、そこの住民になり切らないといけないということである（しかも、年数だけの問題ではない？）！これは、本当に難しいことである！（最初に）言うだけなら、誰でも出来るということであるが、それを、ここまで（39 年間）やり切ったということでもある！当初は、「山村留学」というようなことではなく、純粋に、子ども達に自然体験（特にキャンプを通して）を与えたい！それが、どれほどの教

育的価値（成果）があるのか、それを、子ども達と一緒に実現したい！ただ、それだけであったようである！
　なお、かの「山村留学」とは、第一義的には、全国で進む過疎化、それに伴う学校の統廃合あるいは消滅、それに対処するための、地域の生き残り策であった！ただ、彼女は、そのために、それをやるということではなかったということである！しかし、結果的には、そのための大いなる成果を出したということである！そして、それは、当該地域の存続・活性化という事態にまで発展し、そのことが、村の人達に受け入れられ、そしてまた、そうした力や実績を、「過疎危機」を迎えていた行政が、積極的に評価し、そちらの方からの支援・協力も惜しまなかったということである（前村長や現村長との面談から！）！まさに、ギブアンドテイク、否、ウィンウィン、否々、運命共同体の関係で、それを進めたということである！
　ちなみに、その取り組みには、山村留学をはじめ、学童保育　生活体験学校（通学合宿）、交流キャンプ、さらには高齢者（地元住民）の生き甲斐づくり、地産地消、Ｉターン（Ｓターン）組の出現というような要素が鏤められており、だからこそ長くやれたということであり、全国の共感者、共鳴者が増え続けてきたということでもある?!その成果（機能）が、言わば「地域教育総合センター」、そして「地域総合商社」的に、内外に発揮されてきたということでもある！しかし、それもこれも、そこに「子どもがいる（来る）」ということが大前提であった！言い換えれば、子どもも、そこの住民の一員であるということである！
　したがって、その大前提が変われば、例えば、新たな（予期せぬ？）職住分離が進み（役場の職員や学校の教職員は、他地域から！今後は、その状況は加速する？）、他ならぬ子どもがそこにい（来）なくなれば、事態は大変なことになる！センターは、ある時期（学校の長期休暇期間）だけのイベント提供機関、そして一つの企業となる?!そうなれば、ほとんどの関係がおかしくなってくる??そこが、心配されるのでもある?!
⑶今、そしてこれから、〇〇県に必要なのはどういうことか？
　そこでであるが、そのことも踏まえて、我々は今、改めて、そこから何を学ぶべきか？そして、何を考えていくべきか？おそらく、それらは、「まちづくり」からであろうが、「ひとづくり」からであろうが、今後も等しく問われるべき課題であろう（理論的にも、実践的にも？）！ただし、もちろん、泰阜村のような山間地（離島もそうだが！）とＮ市のような都市部の情況は、かなり異なり、同じ課題を有しているにしても、その考え方（覚悟や心構え、否、哲学？）はともかく、多くは方法論の妥当性（実現可能性）を自ら見出していかなければならない！要は、真似をしたくても、出来ないことが多々あるということでもあるが（例えば、そこに定住するというようなこと）、大事なことは、その持続性をいかに実現させていくかということである！
　そこで考えられるのが、各種ネットワークの確立、しかも、戦略的には、今最もそれを必要としている「学校教育」との関係づくりであるが（これまでもあったが、それをより有効なものにするということ）、それは、地域（校区）内外に存在する、心ある人達、心ある事業体との複合的なネットワークづくりである（一つの核となる「センター」、「総合商社」のようなものは期待出来ないということでもある？）！ただし、残念ながら、現在、当の学校教育側には、件の働き方改革によって、表面的にはブレーキが掛けられつつある！しかし、それでは何も変わらない！だから、そこには新機軸が必要となる（それがなければ、負の連鎖は止まらない?!）！
　そう思っていたら、その学校教育側に、驚くべき変化が出て来ているではないか！それは、東京都渋谷区の取り組みであるが、それには、そうしたＮＰＯ／一般社団法人の参画・協力が、是非とも必要なのである！その取り組みについては、次号（31）で紹介することにするが、改めて、「教育」は、「ひとづくりとまちづくりの一体化（循環）」において、その十全な成果を発揮することが出来るのである！だから、「学校教育」と「社会教育」は、双方の力を結集して、その実現に努めなければいけないのである！だが、それは、繰り返すように、部分的な連携・協力（一緒に何かをやるだけ）ではなく、その成果やエネルギーを循環させる、共有するということが重要なのである！しかも、今、その仲介や橋渡しが出来るのは、他ならぬ、そうした「ＮＰＯ／一般社団法人」なのである（今回の泰阜村の事例は、それを如実に示している！）?!
　すなわち、これまで、行政（教育委員会）や各種の社会教育関係団体（ＰＴＡ／子ども会／婦人会／青年会等）が、それこそ、その実現に向けて精一杯の努力と熱意で頑張ってきたとは言えるが、やはり状況自体が変わってきたのである！学校も、制度疲労は進み、関係者も這う這うの体？ただし、その、新しい「ＮＰＯ・一般社団法人」も、自らの生活の保障がなければ、その意義や可能性を、十分に発揮することは難しい！だから、ＤＸ化を含め、新たな形を、関係者すべての力と知恵（財力も！）を結集して、それぞれの地域（コミュニティ）に創り出していかなければいけないのである（もちろん、それを指して、私は、「教育協働」と呼んでいるのである！）！最後に（多少、余計なことかもしれないが？）、ここで敢えて〇〇県と表示したのは、単にその名を伏せておきたいからではない！もちろん、現実的には、今目の前にいる（私と交流をしてくれている）〇〇県の人達に頑張って欲しいということではあるが、それは何も〇〇県だけに言いたいわけではなく、すべての県（否、自分達の地域／コミュニティという意味）において言いたいからである！　　（つづく）